

令和6年度第1回 狭山ニュータウン地区再生連絡協議会 議事要旨

■開催日時：令和6年11月5日（火） 午前10時00分～

■開催場所：大阪狭山市役所 3階 第一会議室

■出席者：委員：上甫木委員、久委員、金谷委員、山口委員、吾妻委員、菊屋委員、疋田委員、松本委員、田中委員、山村委員、駒田委員、芝辻委員、谷埜委員、品田委員、小泉委員
事務局：古川市長、田中副市長、楠副市長、政策推進部長、総務部長、健康福祉部長、市民生活部長、まちづくり推進部長、水政策部長、教育部長、政策推進部兼まちづくり推進部理事、政策推進部企画・情報政策G課長、まちづくり拠点整備推進室長、企画・情報政策G課長補佐、企画・情報政策G主査、都市政策G主査

■案件：1議事

- (1) 令和6年度の取組状況について
 - ①市の取組状況
 - ②推進会議の取組状況
- 2報告事項
- (2) 近畿大学病院等移転跡地活用等の検討状況について
- (3) その他

■資料：資料1 大阪狭山市狭山ニュータウン地区再生連絡協議会規則、委員名簿
資料2-1 狭山ニュータウン地区再生に向けた令和6年度の主な取組状況
資料2-2 狭山ニュータウン地区再生推進計画（令和5・6年度取組状況一覧）
資料3 令和6年度狭山ニュータウンの未来を育むプロジェクト推進会議活動状況
資料4-1 第4回狭山ニュータウン魅力発見フェスタについて（チラシ）
資料4-2 未来を育むふれあいまつりについて（チラシ）
資料5-1 岸和田リハビリテーション病院の視察概要
資料5-2 回復期機能の説明
資料5-3 土地利用ゾーニング案（R4年度調査結果）

■議事要旨

○令和6年度の取組状況について

- ・資料2-1、2-2について事務局より説明、資料3、4-1、4-2について委員より説明
- ・府営狭山住宅の建替えについて委員より補足説明
（主な質疑）

発言者	発言要旨
委員	令和5・6年度の取組みの中で、ニュータウン内で実施し、特にアピールできるものはあるか。
事務局	地域包括支援センターニュータウンサテライトの拡充、近畿大学病院等移転跡地に関する土地利用についての検討調査、フリースクールみ・ら・いの分室の設置などが挙げられる。
委員	府営狭山住宅建て替えについて、不安がられている住民もいる。住民や自治会への説明状況はどうなっているか。
委員	自治会には、令和6年6月に、今年度の取組内容と今後の流れについて説明させていただいた。6月から期間がたっているので自治会には改めて今後の流れ等を説明させていただく。
委員	どの自治会も同じで、高齢化や担い手不足もあり、一度解散してしまうと、再び立ち上げるのは困難だと思う。自治会の今後の運営についても自治会と協議を願いたい。

委員	自治会の今後の運営についてもお伺いして可能な対応を行っていく。
会長	さやマルシェの参加者について、ニュータウン以外からの参加者はどの程度か。
委員	ニュータウン以外にお住まいの方にも多く参加いただいております、また、幅広い年齢層の方々に参加していただいているように感じている。
委員	来場者数の最終集計は現在作業中。ニュータウンだけでなく市全域から参加いただくことで、ニュータウンをより知っていただける機会になっていると感じている。本年度は実行委員会形式で企画の検討等を行うことで、とても盛り上がったと感じている。
会長	若い世代の参加も多いということで、地域に愛着を持ってもらい、次の世代につないでいくという意味でもさやマルシェの開催は有効な手段の一つと考えられる。
副会長	府営狭山住宅のような大きな公的施設の整備のタイミングは、地域コミュニティを強化する良いチャンスでもある。ワークショップなど地域住民が集まって話し合うことが地域コミュニティの強化につながる。府や市は、地域の方々が集まる機会を多く設定いただけたらと思う。
委員	さやマルシェについて自治会の関わりが少ないように感じる。自治会が活性化しないと地域の活性化はないと考える。小学校とも連携し保護者も巻き込んだりすることでより盛り上がると思う。
委員	さやマルシェと同時開始の謎解きウォーキングでは、南中円卓会議自治会交流会（12自治会）に依頼して、公園チェックポイントでの案内やルートでの見守りなどで、自治会から32名参加いただいた。また、チラシの回覧等などでも積極的に協力いただいている。

○近畿大学病院等移転跡地活用等の検討状況について
資料5-1、5-2、5-3について事務局から説明

発言者	発言要旨
委員	せいわ会の新病院については、回復期リハビリテーションが主になると思うが、外来診療を実施していただけるよう、今後も市に努力していただきたい。
委員	岸和田リハビリテーション病院には通院での患者もいるのか。いるならば、その患者はどのような交通手段で通院されているのか。公共交通事業者の今後の対応等も変わってくると思う。その点も含めて協議していただきたい。
事務局	通院患者もいるが、通院手段までは確認できていない。今後の新病院での取り扱いについては協議・確認していく。
委員	近畿大学病院等移転跡地や公共施設再編予定の今熊地区は駅から遠くアクセスが良くない。バス事業者とも協議のもと、アクセスについても検討を。
事務局	既存路線バスは1時間に5本運行しているほか、市循環バスも運行している。近畿大学病院等移転跡地の開発と絡めて、バス事業者とも協議してルートの見直しも考えている。今熊地区についてはバスやタクシーの交通結節点としての整備も検討している。
会長	開発者が決まって協議していく際には、各公共交通事業者が一緒になって協議する場も設けられるのか。
事務局	現状、そういった場はないが、開発規模が大きく、土地利用計画によっては周辺交通に大きな影響を与える可能性もあるので、必要に応じて個別相談させていただく場合もある。
委員	さやマルシェに参加させていただき、子どもにタクシーを知ってもらえる良い機会になり、感謝している。堺市にできる近畿大学病院の新病院については、金剛営業所の営業範囲外。移転跡地の新病院に待機できるようこちらから営業をかけるのかなどは、今後、市にもご相談させていただけたら。
副会長	近畿大学病院等移転跡地の売却等について、近畿大学の管理部から最終段階にはきていると聞いている。また、厚生労働省が示すように、地域医療については、急性期病院や

	回復期リハビリ病院、地域のクリニックなどが役割分担し、連携してくような仕組みが求められている。新病院は、リハビリ中心の病院になるが、跡地取得企業がクリニックモールのようなものを検討される可能性もあると思う。それぞれの役割分担、連携ができていくと、地域医療に関する地域住民の不安を解消できるのではないかと思う。
委員	さやマルシェなどのイベント時にもタクシーアプリの案内等を行うことで、利便性向上や利用促進につながるのでは。また、令和7年度から南第三小学校が小規模特認校になることについて、より良い事業となるよう引き続き近隣住民との調整をお願いする。
○その他	
帝塚山学院大学跡地の状況（資料なし）について事務局から説明	
発言者	発言要旨
	<意見なし>
○まとめ	
発言者	発言要旨
古川市長	皆さまのご意見を通じて、令和7年度から新たな局面に入っていくことを再認識できた。令和7年11月に近畿大学病院等が移転し、様々な影響がでてくると思うので、それに対する対応・対策をできることからやっていく必要がある。この協議会や推進会議の役割がさらに重要になってくる。引き続き皆さまのご協力をお願い申し上げます。
会長	先ほど副会長からもハード整備というのは、コミュニティの強化のチャンスでもあると発言があった。いよいよ新たな局面に入らる中で、その旨意識しないといけない。ワークショップなどの市民参加も取り入れるなど、病院跡地だけではなく、ニュータウンやその周辺も含めて総合的に考えていかないといけないという段階に来ているように思う。この協議会や推進会議の重要性がさらに増してくると思う。引き続き地域の方、企業、事業者の方々も含めて、しっかりと進めていきたい。
楠副市長	市長が申し上げたように、いよいよ実務本番になってきており、この協議会の立ち位置を再考しないといけない時期になってきたかなと思う。ニュータウンに本市の半数が住まわっていることを大切にしながら、本市のまちづくりを今後も進めていきたいと思うので、今後ともよろしくお願い申し上げます。